

## 議 事 概 要

### 1 開会

- ・事務局から開会の挨拶を行い、配布資料の確認と欠席委員の報告を行った。

#### 【配布資料の確認】

- ・会議次第
- ・資料 1 - 1 : 環境教育関連施策・事業一覧
- ・資料 1 - 2 : アンケート結果
- ・資料 1 - 3 : 事業研究実施結果
- ・資料 1 - 4 : かんきょうみらいカップ 2008 実施報告書
- ・資料 1 - 5 : さっぽろこども環境コンテスト実施概要
- ・資料 2 : 平成 21 年度の推進策
- ・資料 3 : 札幌らしい特色ある学校教育の推進について
- ・参考資料 : 平成 21 年度の札幌市教育推進の目標
- ・参考資料 : わたしたちの生活に欠かせない (白崎委員より提出)

#### 【欠席委員の報告】

- ・伊藤委員は欠席。

### 2 挨拶

- ・札幌市環境局環境都市推進部長から挨拶があった。
- ・各委員より、近況報告など、簡単な挨拶があった。

### 3 議事 ( 1 ) : 環境教育関連事業の実施結果について

資料 1 に基づき、事務局 ( 環境局、教育委員会 ) から説明を行った。

- ・環境教育の関連施策の事業一覧 ( 2008 年度版 ) の作成
- ・環境教育プログラムと総合的環境副教材の周知と活用策の検討  
副教材のアンケート集計結果  
プログラムのアンケート集計結果
- ・校外学習用バス貸出
- ・環境教育へのクリック募金
- ・環境プラザにおける総合学習支援
- ・環境教育リーダーの追加養成
- ・環境教育施設バスツアー
- ・かんきょうみらいカップ 2008
- ・さっぽろこども環境コンテスト

#### 【質疑応答・意見等】

< 環境教育プログラムと総合的環境副教材の周知と活用策の検討について >

[ 環境教育プログラムについて ]

- ・もう少し認知してほしいなと思うが、初年度はこんなものかなと逆に思う。現場では冊子が何冊か配ら

れて、それはほとんど先生の手に行っていないのが現状。1人1冊配られているわけではないので、関心がある先生がいると、こういうものがあるのでぜひ使ってほしいと先生方に啓発していくことによって使ってもらえる。そして、啓発していくということを3年ぐらい続けていかなければならないかなと思う。ふだんのことを積み重ねることがまず環境教育の始めだということを知ってもらえることが一番大事だと思う。3年間ぐらい頑張って啓発していきたいと思う。また、教育委員会のお力添えもいただいて、どんどん話を広げていっていただきたいと思う。(三木委員)

・総合とかさまざまな部分でかかわってこなければならぬところなので、少し時間をかけても周知していく必要がある。チャンスなのは、新学習指導要領完全実施に向けて、今、各学校が教育課程を編成している。中学校の場合は、どうしても教科の時間があっさりとられてしまっている中で、その中に組み込んでいかなければなかなか実施できない部分がある。そういった意味で、今、新しく教育課程を組み直している最中なので、しかも新学習指導要領はさまざまな教育との接続を重視するという部分があるので、当然、この環境教育が大きくかかわるのは今が一つのチャンスである。ここ1年、2年のうちに啓発して、それを組み込んだ教育課程をつくっていく必要がある。そのときに大きな効果をあらわすのではないのかなという期待を持っている。(小路委員)

[総合的環境副教材について]

・アンケートの結果、児童への活用率と、教師の活用率で、一番思ったのは、授業の内容と環境とかがわかっていてすごく使われるなというところ。4年生で言えば、50%を超えているということは、結局、4年生の先生の2人に1人は授業で使われていたということ。1週間で、2時間の中で教科書と副教材と父さん、母さんからお金を出して買ってもらっている「わたしたちの札幌」と合わせて三つを使いながらの授業になってくるから、その中でこれだけ使われたというのは、すごく高い数値かなと思っている。やはり、一番授業で使えるということは、カリキュラム内容とリンクしていれば使えるのだろうなと思った。(白崎委員)

・できれば内容がしっかり入った教師版の方が、例えばホームページの方でアップされて、もっと使いやすくなりますよと。このページでは、こんなことを指導していけば、説明していけば、子どもたちによりわかってもらえますよというものが見られるようになればいいかなと思っている。ただ、ショックだったのは、やはり時間がないという理由が8割以上で、内容をちょっと高めたとしても10%のニーズになってしまうのかなと思いつつ、何かいい方法を考えたいと思う。(白崎委員)

・副教材の方は、高学年では全体的に読みやすいと感じたというのが5割以上出ているので、よかったかなと思う。4年生で非常にヒットしているというか、4年生に物すごく合っていたというのが、今後、作り直すときの参考になるのかなと思う。5年生、6年生のところをどう直すかと。特に、一、二年生は具体的に生活科とこれがどう結びつくのか余り深く考えていなかったのが、高学年でこちらとどう違うのかというのをちょっと考えてみたいと思う。時間がないという理由だが、これは一番言いわけしやすい理由であると同時に事実であるということかと思う。その時間のない中でも使っていく価値があるというふうにわかっていただくというのが一番いいと思うので、今回の結果をもう少し分析して、よりよいものに変えていながら普及を図るのが大事だと思う。(大野委員)

・こういう教科書副教材は、子どもが一人で読めるということと、授業で使うということと、授業で使う場合は何から何まで書いてあると使いにくいということがあり、いろいろ相反することがある。なるべくその両方を満たす道を考えながら改善していくということが大事かと思う。(大野委員)

・一番気になったのは時間がないというところで、時間がないというのは二つ要素があって、年間カリキュラムが決まっているので組み込むことができないということと時間がないのか、ご自身が環境教育の教材開発をする時間がないのか、どちらなのかなと考えた。三木委員の話だと、できるだけ教科の内容に沿っているはずなので、恐らく、教材開発をご自身でする時間がないのだろうと思う。今の学校の中のお仕事は非常に忙しいのでそこに割く時間がないのではないのかと。それで、こういうような副読本のさらに教師版を二、三年かけて、こういうふうにやればできるのですよということを普及していかないと、いい冊子があっても、それをすぐに利用して、ではこういうふう工夫していこうかなというふうな時間を割

くのは難しいのではないかと思った。(森田副会長)

・副読本のプログラムを見ても、授業に関連しているところは活用しやすいけれども、教科書にないようなところは活用しにくいということが出ている。やはり、カリキュラムにいかにかこの本自体を組み入れてもらうかということ。例えば社会科だったら、白崎委員が言われたように、「わたしたちの札幌」みたいな副読本があり、これがあれば何とかなるなどみんな思っているところがあるので、新しいものをわざわざ読んで違うことをしなくても何とかなっている面がある。これからの札幌市ということを考えたら、教材研究的な、教材を新しい視点で見直すということが必要。それで、この冊子はぜひ活用してくれという話になれば教科の中に落ちていくので、そうすると指導時間も確保されると思う。総合に位置つけているものについては、なかなか意識が変わらないと、それこそ違う意味での指導時間がないと。例えば、今、学校だよりも、この日にはこの教科をやったということを全部載せているので、このクラスだけ違う活動をしているというのはなかなかやりづらいつい時代になってきている。そういう意味でも、まず教科としてきちんと組み込んでもらうということが大事。それから次に、総合とか教科の発展として使ってもらような戦略でいったらどうかと思う。(三木委員)

<さっぽろこども環境コンテストについて>

・時期的に、応募された学校は相当大変だっただろう。卒業式などを控えたこの時期に、よくこれだけの学校が応募して出てきたと思うし、一方で、間に合わなかった学校もたくさんあるのだろう。(小林会長)

・どの学校も大変熱心に、子どもというのは本当に純真だし、すごく能力があるなど思った。発表の機会があって、お互い学び合いをして、こんなことをやっている学校もあるのだということで、素晴らしい企画だったと思った。私は審査委員長をさせていただいたが、どの発表も大変素晴らしい発表で、優劣をつけがたかった。(小林会長)

・項目としては、木材、緑、木の利用、割りばしの利用というものが一番多かった。それから、資源、ごみ、リサイクル、プラスチック、ペットボトルというのが次にあって、電気とかエネルギー、雪の利用というジャンル、それからアメニティーとか自然というような課題について取り上げられていた。(小林会長)

・いろいろな学校が一つの課題について発表しただけではなくて、三つも四つにもついて発表したところとか、1年、3年、5年はこれをやっている、2年、4年、6年はこれをやっているということで、継続性と上の学年から下の学年へ教え合い、学び合いと継続性をやった学校もあって、非常に素晴らしいご発表だと思った。(小林会長)

・授業と連動させた環境の授業と、それから今お話しされたような国際理解の側面ということも踏まえての実践だったので、子どもたちに非常に声をかけやすく、集めやすく、たくさん集まった活動になった。(白崎委員)

・どのレベルの取り組みを出していくかというのが明確でなかったのが、授業レベルでやったことを出しているのか、それとも自治活動的に扱ったものを出していくのが明確ではなかった。ただ、せっかくの機会だから、まず子どもたちにとらえるところからやらせたかったというのが実態で、自分たちの環境をとらえて、次にどういう活動に結びつけていくかということであった。(小路委員)

・今年度初めて、小・中学生を一遍に集めて同じ日に発表してもらったが、問題は時間であり、当初、朝9時ぐらいからやろうかという案もあったが、それでは小学生が持たないのではないかとということで、結局、1時から5時半ぐらいまで4時間半にした。それでも、最後は小学生は疲れ切ってきたのではないかと、4時間が限度かなと考えている。(事務局：環境局)

・事前に環境活動について詳しく準備をする必要はないというようなもの、実際に自分たちの身の回りにあってやれることだったので、発表内容については非常によかった。(米倉委員)

・コンテストの場で発表をするという機会を子どもたちに与えたということは、そういう場を提供することにおいても意味があったと思う。(米倉委員)

・ただ、1点、発表形式がほとんどパワーポイントであり、このパワーポイントも、指導される先生方のパワーポイント。中身はそうでないのですが、作り手は教師のもののように感じた。やはり、もっ

と子どもたちの手でやったもの、これは、見ばえとしてはよくないと思うが、子どもたちが自分で調べたグラフが出てきたらいいなと思った。子どもたちは、子どもたちのものや作品に非常に興味を持つのだから、そういう形があってもよかったかなと思った。(米倉委員)

#### 4 議事(2): 今後の推進策について

- ・資料2に基づき、事務局(環境局)から説明を行った。
- ・資料3に基づき、事務局(教育委員会)から説明を行った。

##### 【質疑応答・意見等】

<平成21年度の推進策(人材の育成)について>

・欲しい情報がたくさんあるのだけれども、うまく手に入れるすべがない。そのあたりが次の段階の課題になっていくと思います。一つ一つの取り組みではなく、それらが力を合わせることによって一つの環境の目的を達成していくという仕組み、特に情報の受発信の仕組みをどうつくっていくかが課題になると思います。具体的には、人材育成の方では、環境教育リーダーのメンバーの数がふえ40名になって、それぞれご依頼があったところに派遣を行い、指導を行います。環境保全アドバイザーも同じ仕組みですが、リーダーやアドバイザー同士の情報交換の機会をつくっていただいていますので、多少の情報交換はあるのですが、これからご利用されようとする方に対しては、やはり具体的な事例がなければ、この方を呼ぼうとか、こんな取り組みもできるのかということが具体的に伝わりにくいと思います。やはり、今回、今後の方針案の中にしっかりと書かれていますけれども、実践例の紹介ということが一つ重要な点になっていくのかなと思います。(丸山委員)

・国とか道とか市とかみんな独自にやっています。そういう情報も、私たちですと結構早く入るのですが、一般の方まで流れるのに時間がかかるのです。それは、正式に金銭的な裏づけが出ないと広報などに載せられないと。例えば、環境省と文科省と共催の環境教育リーダー研修基礎講座というものがあるのですが、それはいつも8月で、こっちはたしか8月9日から11日まで森町で行うのですが、それは10月ぐらいの段階で日程は決まっています。しかし、予算の裏づけがないから、議会を通過していないからといって伏せられている情報はたくさんあるのです。そういうものは公的なところで出せないの、さっき言った4者の環境情報カレンダーのようなものに括弧つきで載せると思うのです。そういうことで、形になるかどうかわかりませんが、公的なところは責任があってだめなのだろうけれども、そういう情報は結構たくさんあって、それが早くわかればお互いに共通して協力して同じ事業を両方でやれるのではないかという感じがします。(藤田委員)

<平成21年度の推進策(情報の共有)について>

・私は、北海道の地球温暖化防止活動推進員の中で、環境財団が一つ核となっているいろいろな情報発信をされているので、メーリングリストもありますし、その中でいろいろな情報がありますし、発信もできるという形にはなっています。(宮森委員)

・T G A Lなり環境財団のホームページ、メーリングリストで情報は来るようなシステムがつくられているのですね。そういう意味では、環境教育についてはそういうシステムがまだ備わっていないということになりますね。札幌市が、丸山環境教育事務所に情報流通の整備を委託するという手もありますね。(小林会長)

・施設というか、例えば国とか道の組織と定期的に情報交換などを行ったり、一緒に何か事業をできればいいですねという話は、今、進みつつあります。(事務局:環境局 吉津係長)

<平成21年度の推進策(プログラムの周知・有効活用)について>

[周知・活用の推進について]

・プログラムの周知・有効活用についてのところで、今回、意見が各委員からも出ていますが、アンケート結果を参考に内容や使い勝手をよくしていくというふうに書かれているのですけれども、内容や使い勝手をよくしていくというのは、具体的にどんなふうに進めるご予定なのかというイメージをお聞きしたいと思うのです。(丸山委員)

・ひょっとすると、内容までいかないのかなと、実はこの資料のアンケート結果と並行しながらつくっていた部分もございまして、正直、中身を変えるよりも周知する方が先かなと思っているところも正直ございます。内容については、例えばごみの有料化ということがあって、プログラムの中身を少し考えなければいけない部分があるので、そういうところは更新しなければならないと思います。(事務局：環境局 吉津係長)

・この副教材づくりは、去年とおととの夏休みに、超勤手当も何もないぐらいでワーキンググループの方にやっていただいたのです。だから、やはり有効に使ってもらいたいのです。そういう意味では、このアンケートは大変有効です。記述式で書いてもらったものをずっと羅列していただいていたのと、統計を棒グラフにさせていただいたのを謙虚に見て、さらによいものにしていく必要があると思います。あとは、アンケートの聞き方として、先ほど森田副会長が言われたように、時間がないというのは二通りの意味があるということで、このアンケートは何を質問しているのかわからないから答えられないというものは結構あると思います。ですから、時間がないという言葉も森田副会長がさっき言われたような二通りの意味があるということから、アンケートをもっと進化させて、もっと客観的な物の見方をすると。それから、ことしのアンケートの反応を見た上で、さらにもっときちんとしたことを問えるようなアンケートづくりも進めていただきたいと思います。(小林会長)

・私はカリキュラムを全然知らないのですが、副教材を見せてもらったのですけれども、環境教育を学ぶという点では副教材はすごくわかりやすく、子どもにとっていいのです。これは、親にとっても非常によく、例えば冬休みとか夏休みの自由研究の課題は、ぜひこれをベースに考えてくださいと。例えば、学校でどうしても扱えないような部分は、何人の子どもがトライするかわかりませんが、課題としてやってみませんか。そういう形の利用の仕方があってもいいのかなと思いました。(西村委員)

・三、四年生が使われる理由というのは、やはり教科書準拠だと思うのです。こちらの方は、三、四年生版は私が執筆しているのですけれども、札幌市の規定編の方も執筆しているのです。だから、札幌市の学習の流れに沿っていったときにこれが使いやすい形で作成できているということと、「わたしたちの札幌」は北海教育評論社から出しているものなのですが、私はそちらも執筆しているのです。そちらとの重複がないように、向こうの方は詳しい説明中心で、こちらの方はワーク的に子どもたちが活動で使えるように、札幌市のこれからの新学習指導要領の中で進めていくカリキュラムにも沿っている内容で、札幌市の重点項目である雪のことも後半部分で入れていくというスタンスで、三つ見たときに目的をそれぞれ別にして作成していくから、4年生は使いやすいのだと思うのです。やはり、学習内容と連携させていながら、ほかの資料では使えない、この資料でしかできないようなスタイルでいければいいのかなと思うのです。子どもたちが地域に出て活動するのが三、四年生だから、この冊子がマッチするのです。しかし、五、六年生になってくると、どうしても文章量が多くなってしまいうのは、詳しく知りたい、知的好奇心を高めていきたい、学力的にもオゾン層はどうして壊れるのかということがこれを読めばわかるということで、子どもたちがこれをもとにして活動したりというよりも、これをもとにして考えたり、わかるよという使い方をするのです。ですから、先生がこれをもとに授業するというよりも、これを配りながら、そのときそのときによって生徒、子どもたちが自分たちが必要であればここを使いたいという形で選択していくというスタンスが五、六年生のものにはあるのです。一斉授業で使うときは、学習の内容としても理科、社会と完全にリンクするわけではないから、どうしてもこのところを開いてごらん、全員で考えていきましょうねというところは中学年から比べると少ないです。決して内容的な部分でわかりにくいわけではないと思うのだけれども、確かに、文章の量が多いかなといった面はこれからもう少し精査していかねばならないと思います。ただ、いかんせん、会議の回数がないと精査もできないので、その辺のところ

は教育委員会の先生ともタイアップして進めていければと思っています。(白崎委員)

#### [エコライフレポートについて]

札幌エコライフレポートの取り組みについて申し上げたいのですが、2月23日にエコライフレポートの集計結果が学校に届きました。見せていただきますと、冬休みの取り組み率は80%以上ということで、夏休みに比べて4倍ちょっとふえていますのです。それから、きょう出ています取り組み人数も、夏休みに比べて冬休みはおよそ4倍です。これは何なのかと考えると、前回の会議のときに、環境局の方々が例えば校長会の研修会に直接出向かれたのです。そして、これについてぜひ協力をというお話をしているのです。私は手稲支部だったのですが、そういうような努力をなされたのです。ですから、前回も申し上げたのですが、学校には非常にたくさんの紹介のパンフレットが参ります。インターネットとか、資料等を送付しましたというのも一つの紹介にはなるのですが、足で稼ぐというか、今回、環境局の方々はそういうことをされたのです。これが、この4倍という数字にはね返ってきたのではないかと私は思うのです。したがって、毎年ではないにしろ、こういうことを大事にするということは必要なのではないかと思います。先ほどおっしゃったように、今後の課題としては、児童数から見た取り組み率が大体六十数%です。だから、このあたりをいかにして上げていくかということが課題だと思っておりました。(米倉委員)

### 5 議事(3): その他

#### 【次回(平成21年第1回目)の委員会の日程について】

・次回の委員会は9月から10月頃を予定しており、議事については、平成21年度の実施結果の中間報告及び次年度22年度の実施事業の検討などについてを予定している。(事務局:環境局 宮佐課長)

### 6 閉会

(会長から閉会の挨拶)

- 以上 -